

## 広島湾におけるアオサ増殖の機構を解明する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2025-07-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 吾郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014967">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014967</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 絵で見る研究最前線

### 広島湾におけるアオサ増殖の機構を解明する

吉田 吾郎



#### 背景

アオサはアオノリと近縁の緑色の海藻（緑藻）で、海岸ではごく普通に見られます。しかし、高度経済成長時代から日本各地でアオサの異常増殖の報告が相次ぎました。瀬戸内海・広島湾では、特に1990年代に砂浜・干潟に大量のアオサが漂着し、景観破壊や漁業被害が問題になりました。

沿岸域を健全な環境に保つため、アオサが増えた原因と、沿岸域の生態系に与えている影響を明らかにすることが求められています。そのためには、アオサがどのくらいの量存在しているのか、どのような場所でどのくらい成長しているのか、などについて明らかにする必要があります。



干潟に漂着したアオサ



#### 方法

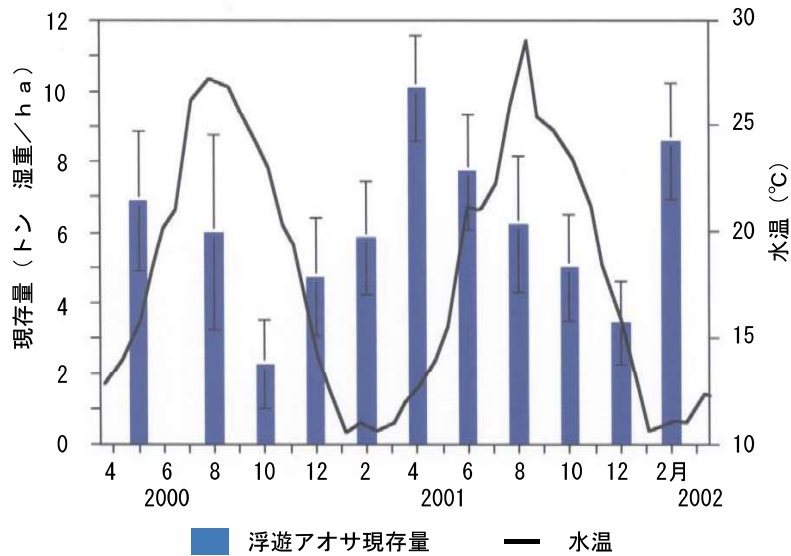
広島湾において干潟や砂浜に漂着したアオサの量の季節変化を調べるとともに、潜水や底引き網により、海底に溜ったアオサの量や分布水深を調べました。また養殖かごにアオサの葉片を入れて海中に垂下し、成長量の季節変化を調べました。これらの結果から、アオサが広島湾全体でどれだけの量あるのか推測しました。



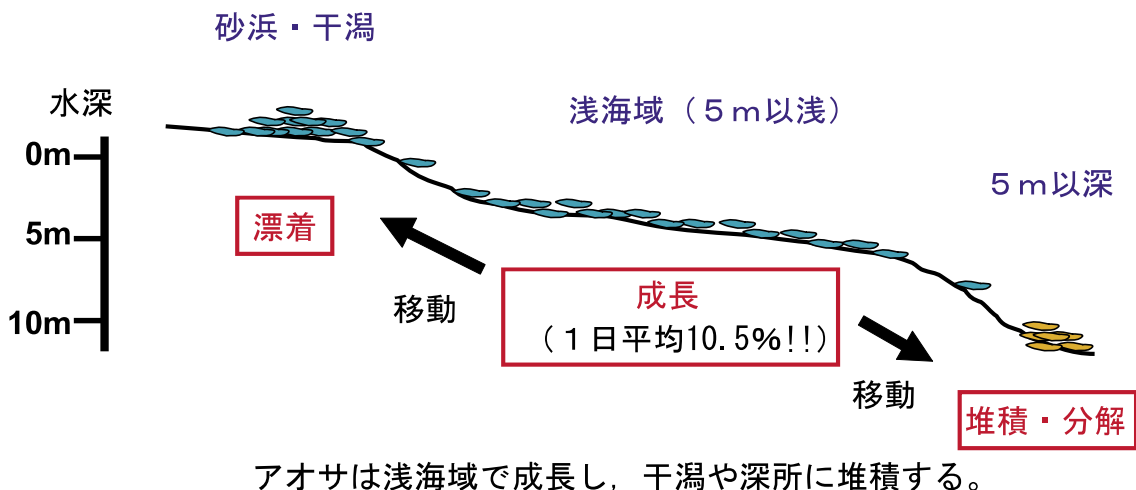
底引き網にかかった海底堆積アオサ

結果

アオサは砂浜・干潟や、それに続く緩やかな浅い海に多く、冬季から春季はじめにかけて増え、夏季から秋季にかけて減少しました。最も多い春季（4月）には1ヘクタールあたり約10トン（湿重量）もの量になることがわかりました。一方、アオサは1年を通じて速やかな成長を示し、浅海域（水深0～4m）における年間の平均日間成長量（1日に成長する量）は約10.5%と、極めて大きいことがわかりました。また広島湾におけるアオサの量は、乾重量で約3,400トン（湿重量では17,000トン）と見積もられ、アマモ（78トン乾重）やガラモ（483トン乾重）よりはるかに多いことがわかりました。



干潟域とそれに続く浅海域（水深0～6m）におけるアオサの量の季節変化



将来的に

アオサは内海の環境を映す鏡であり、今後もモニタリングを続け、他の生物に対する影響を詳しく解明する必要があります。一方でアオサは栄養塩の吸収やサザエなどの餌料として優れており、アオサの良い点を積極的に利用することにより、環境改善に役立てる努力も必要です。

(生産環境研究部藻場・干潟環境研究室)